



新九郎通信

発行 小田原市栄町 2-13-3 (株) 伊勢治書店 3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
 メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

師走を迎えました。振り返ると今年もたくさんの素晴らしい作品と出会えた1年でした。

平塚市美術館「石田徹也展」、「天心」の映画と同時に見た「展覧再興100年記念展」での、狩野芳崖、横山大観、菱田春草、下村寒山、岡田美術館での幻の歌麿「深川の雪」、平塚市美術館「横山大観の富士」「松尾敏男展」など改めて日本画の魅力、奥深さに触れた1年でもありました。





新九郎では、展示ごとにギャラリーの空間を変化させてしまう作品たちから、多くのパワーを頂きました。温かい空間、穏やかな空間、中でもいい緊張感のある展示空間が好きです。作家の想いが伝わる空気感が心地よく、いつしか自分の世界に浸っています。

新九郎の一年を締めくくるのは、恒例のアートフェスティバル。今年も魅力的な作品が揃います。忙中閑有。暮れのお忙しい中ですが今年のアート納めにぜひお出かけ下さい。今年も1年ありがとうございました。どうぞ良いお年をお迎えください。



新九郎 12月の展覧会のご案内

近隣・友の会会員の展覧会情報

会期 展覧会名	見どころ
 12/5 (金) ~ 7 (日) 第六回 侑悦会展	書道研究汎侑会にて、坪田宋悦先生のもと、書道を習った仲間 で「書の楽しさ」を作品にした 展覧会
 12/10 (水) ~ 15 (月) 橋本樸々回顧展	昨年 92 才で亡くなられた、橋 本樸々先生を偲ぶ、回顧展で す。油彩、コラージュ等 12/14 (日) 14:00 ギャリートーク
 12/17 (水) ~ 22 (月) 新九郎アートフェ スティバル 2014	実力派、新進気鋭の作家を集 め、新九郎1年の締めくくりに の展覧会です。 12/20 (土) 17:00 レセプション
 12/19 (金) 新九郎デッサン会	どなたでもお気軽にどうぞ！ 18:15-20:45 会費 1500 円 コスチューム、固定ポーズ

会期・展覧会名	会場
12/3 (水) ~ 12/8 (月) 第 10 回デコパージュ&シャドー ボックス展	飛鳥画郎 0465-24-3790
11/25 (火) ~ 12/7 (日)「音素の 紡ぎだす世界」マリア・レイ展	すどう美術館 0465-30-2950
12/9 (火) ~ 12/21 (日) 朝比奈賢展「いのちよろこぶ」	すどう美術館 0465-30-2950
12/10 (水) ~ 12/15 (月) 星野富弘カレンダー詩画から -新たな旅立ちの日-	ぎやらりー ぜん 0463-83-4031
12/2 (火) ~ 12/7 (日) -ハンディのある方の現代アート- 気づきの時展 2	第 1 会場 ぎやらりー ぜん 0463-83-4031 第 2 会場 丹沢美術館 0463-83-9550
12/16 (火) ~ 12/21 (日) 第 11 回ハート展	丹沢美術館 0463-83-9550
12/21 (日) ~ 12/26 (金) スケッチ ゲワークの会 湯河原グループ展	湯河原町立図書館 3F 0465-63-4155

東海道五十三次 16 御油宿 (御油の松並木)

5 年をかけ、足で歩いたスケッチ紀行 松野光純



御油宿と隣の赤坂宿まではわずか 1.7 km。五十三次で最も短い距離。この御油と赤坂の間のおよそ 600 m にわたって約 270 本の松の木が続く。家康の命を受けた奉行の久保長安

によって植樹され、昭和 19 年、国の天然記念物に指定された。夏は日差しを避け、冬は防風・防雪の役目を果たしていた。また江戸時代の滑稽本「東海道中膝栗毛」のなかで、弥次郎兵衛と喜多八が、ここでキツネに化かされた話が描かれている。

現在では生活道路が通り、松並木をひっきりなしに車が通るようになったため、松並木を歩く際には注意が必要であったらしいが、2009年に、車道部分を狭くして歩道が整備されたため以前より安全に歩行者が歩けるようになった。

愚うことなど 横井山 泰

すっかり冬の日差しである、富士山の白い頭も見慣れて来た。正月のように晴れた朝には、縁側に寝そべて本でも読みたい。でも、そういう訳にもいかなないので早朝にアトリエに行く。高い窓から柔らかい光が入ってくる。ストーブが必要な季節には、深夜まで制作するよりも早朝の方がやりやすい。



。「午前 11 時を過ぎると光が濁る」と町田康の本に書いてあったのを思い出す。最近、ちょっと変わった絵を描いている。「次々とアイデアを閃いてしまう猫」と「今年うまれた子どもが元服を迎えるまでの友人家族の肖像」である。肖像画は壮大な計画でワクワクする。「閃く猫」を描く前に「閃きを絵で描くとどうなるか？」というんな友人に聞いてみた。「モヤモヤしたものがシャキッとする」「明かりが灯る」「暖色系の色」「目の前の膜が裂ける」「もともと目の前にある」ふむふむ。ふと、ピカソやバルチャスのカーテンを開ける少女が浮かんだ。朝日(?)をベッドで寝ている女に届ける様子である。「人の足元を照らせば自分も転ばない」とか「情けは人の為ならず」のように人の為光(閃き)を届ける絵にしてみたら良いのではないかと暗幕を開けている猫を描きはじめた。後ろには闇にドヨヨンとしている人たち。進めていくと暗幕は光の帯に変わっていった、ドヨヨンな人々は喜んでような顔に変わった。まだ完成はしていないこの大作は 12 月の新九郎のグループ展に出品予定です。



【今村 綾】

日常の中で、なぜか目が離せなくなるような情景、目にとまる瞬間の形を追って制作しています。その中に明日を占うしるしや自分に向けられたサインが隠されているような気がするのです。



【吉本伊織】

1978年富山県生まれ。現在、横浜市黄金町で滞在制作。今年の暮れより来年の2月まで宮城県石巻で、石巻の夜の海をモチーフに滞在制作をしています。主な収蔵先は神奈川県立近代美術館。



【藤本因子】

私は永く「風」をテーマに制作をしてきました。街の風、海の風、山の風など、様々なシーンで感じる、目には見えない瞬間的な空気の流れを、キャンパスの中に表現しています。私にとって「風を描く」ということは、かけがえないライフワークであり、生涯を通した課題であると考えています。



【横井山 泰】

表面「思うことなど」を、お読みください。



【木下泰徳】

いつも酒匂川の土手を散歩しています。変わることはない風景ですが、季節の移り変わりを楽しみながら歩くと、心が癒されていくのを感じます。二宮金次郎の植えた松の梢をクローズアップして描きました。聖性の宿る自然を表したい。



【二宮宗子】

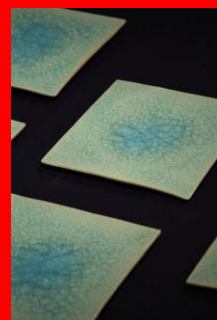
部屋に飾って楽しんでいただける作品を目指し、ぬくもりや懐かしさを感じるようなパステル画を制作しています。



【岡村このみ】

毎朝通る川沿いの狭い道、目の前で糸のように細い蛇が動かず道を塞いでいた。日常の見知った風景が、よそ者の登場で突然知らない風景に変わる。

その場面というかシーンのようなものを描きたい。



【鈴木隆】

2014年もあと少し、今年もいろいろな方に助けられ歩いてこれました。来年は早いもので初の個展から15年目を迎えます。もう少し寄り道でもして道草など食べながら見聞を広げていければと思います。

絵てがみ折々 —小田原の暮らしの中で—
野地 三恵



鬼柚子の季節になった。何年か前に車で出かけた折、蜜柑問屋の店頭でこの大きな柚子がどっさり置かれているのを目にした。葉っぱが付いて見るからに新鮮そうなので、思わず5個も買ってしまった。

「形が不揃いなのは出荷した残りだから」と店の人は言ったが、沢山の中から好きな物を選ぶので、かえって嬉しかった。それから毎年この時期が近づくと、いつ店に出るか気になり、買いに行くのを楽しみにしている。

柚子はしばらく部屋に飾り、その後で甘く煮てジャム

にする。年末の何かと慌ただしい中でほっとするひとときだ。いつもの年と同じことができるのは幸せだと思っている。

11月のこと

・板橋内野邸で「蔵と海展」10/24-11/3に参加した。海をテーマに小品7枚を出品した。今回は4人のグループ展になったが、地元の広川英夫さんが、内野邸の保存・活用を応援する目的で開催した。



初めて訪れる人が多く、皆さん蔵の素晴らしさに、感嘆の声をあげていた。絵と蔵を見て楽しんでいただく。地域紹介の目的は達せられたらう。

・北鎌倉円覚寺での写経の会に参加した。円覚寺の一面に前田青邨の画室があり、その場をお借りしての写経会である。まず部屋、廊下をぞうきんで空ぶきし、きれいに掃除をしてから、居住まいをただし座に付く。主催の岩越先生から般若心経の説明を受け、一緒にお経を唱えた後、写経に入る。先生に運筆の手ほどきを受け、注意しながら写していく。一行に納まらず、はみだしたり、逆に短すぎたり、ちょうどよく納めるのがむずかしい。約2時間集中して書き上げる。出来映えはともかく、心が洗われるようなすがすがしい気持ちになった。㊦

